



がん相談支援センターおよび 患者サポート体制強化の取り組み

公立置賜総合病院
高石 純子





公立置賜総合病院 2000年開院



(H25年度)

病床数	520床	診療科	23科
外来患者数	913.2人(日)	入院患者数	421.0人(日)
病床利用率	81.0%	在院入院日数	13.8日



公立置賜総合病院機能



- 救命救急センター
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 地域医療支援病院



- 第二種感染症指定医療機関
- SARS入院治療指定病院
- エイズ治療拠点病院

- がん診療連携拠点病院
- へき地医療拠点病院

相談支援センターの設置



医療連携・相談室の業務

がん相談支援センター

医療連携部門

- 紹介・逆紹介の窓口
- 患者さんの電話予約受付
- OKI-net事務局
- 転院調整
- 開業医との共同診療
- 地域連携パスの調整
大腿骨・がん・脳卒中・
心筋梗塞
- 周産期医療連携
- 医療機関への訪問活動
- 医療連携だよりの発行

相談部門

- 一般・がん・福祉相談対応
- 患者サポートサロン活動
- 相談支援センターの広報活動
- がん冊子・図書の提供と管理
- セカンドオピニオン
- 退院調整
- 緩和ケア外来窓口
- 5大がん連携パス関係



平成23年頃の現状

現 状

- ①組織において相談支援に関する価値認識が低い
- ②がん相談は月約25件
- ③窓口で常駐職員不在で、受付から呼出し対応
- ④相談員は看護師、事務と兼務のMSWのみ
- ⑤相談員、専門職種間の連携体制が曖昧
- ⑥患者サロン活動がない
- ⑦院内外への認知が低い

課題の明確化

- ①組織で価値認識を共有
- ②相談員常駐化の体制整備
- ③スキルアップとスタッフの充実
- ④多職種協働して相談支援する体制フローを作成
- ⑤患者サポートサロンの開催
- ⑥認知度の向上
 - ・利用者及び職員への広報
 - ・活用されるためのシステムづくり



目的

1. 価値認識を共有する組織の意識改革
2. 相談支援の体制強化と環境整備をはかる

コンセプト : WIN-WIN

- ▶ 相談窓口常駐化の実現
- ▶ スタッフの充実と多職種連携（院内）
- ▶ 地域連携とネットワークの強化（院外）
- ▶ 患者サポートサロンの開催
- ▶ 認知度の向上

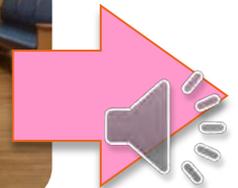
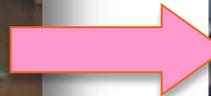


▶ 平成23年度準備段階

相談支援の体制整備の必要性を継続的に提言(人・物・金)
(医療連携・相談室会議、事務部会議、がん診療委員会等へ)

▶ H24年5月より平日日中の常駐化実現(患者サポート体制)

- ・相談窓口マニュアル作成 ・物品整備
- ・窓口担当者の確保: 医療連携・相談室と看護部の協働
- ・他の専門職種担当者へ協力して患者サポート



平成26年3月リニューアル



FAXコーナー

相談窓口

入院案内コーナー

薬剤部

相談窓口、入院案内コーナー、他薬剤部やFAXコーナーと一体化したレイアウトとなり、利便性が高まった。



スキル アップ

- ・ H23年相談員基礎研修(1)(2)受講者2名からH26年(1)(2)受講者4名に(相談部門)
- ・ がん治療の基礎知識、緩和ケア研修、在宅医療、地域連携に関する各種研修等参加

人員 確保

- ・ 医療連携・相談室は、H23年6月に比べ人数、専門職種を増員
- ・ 相談窓口は看護部との協働で担当

多職種 協働

- ・ 相談フローを作成(看護師、医事課、薬剤部、栄養科等々)
- ・ 緩和ケアチーム・各種認定看護師とも連携協力



H23年度

◆ 室長： 医師



▶ 医療連携部門

事務



▶ 相談部門

看護師



H23年
がん相談支援センター専従配置
相談員基礎研修1, 2, 3修了

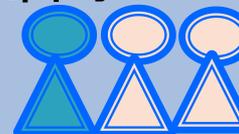
H26年度

◆ 室長： 医師



▶ 医療連携部門

事務



予約センター



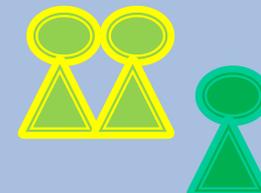
▶ 相談部門

看護師



社会福祉士

精神保健福祉士



実践活動 地域連携とネットワークの強化

地域連携会議やケア会議

- ・置賜3市5町の地域包括支援センター担当者との合同会議を年4回 開催し連携を図る
- ・各地域の事例検討やケア会議に参加

OKI-netの活用

- ・病診連携に活用されているOKI-netを在宅療養での情報共有に活用(終末期の相談対応等)
- ・訪問看護ステーションや施設への拡大準備

退院調整等での地域連携

- ・地域のケアマネ始め、各担当者との退院調整を行う中で、ネットワーク、顔の見える関係を構築
地域ごとの情報や、紹介について確認連絡を随時行う

出前講座の開催

- ・各地域の施設へ出向いて、感染対策、急変時対応、転倒予防など病院各職種、認定看護師らが講演を行い、地域医療の支援と連携を図る



実践活動 がん患者サポートサロンの開催

「がん患者と、そのご家族に対する精神面を中心としたケアの充実」

患者主役の会：情報交換や学び合いの場の提供

- ▶ 平成23年度、乳がん患者サロン開催開始(2回)
- ▶ 平成24年度より患者サロンを5回実施

第1回 乳がんサポートサロン
テーマ「ここが知りたい」Q&A
★ 多職種の高専スタッフが患者さんの質問に答えます
★ 患者さん同士の集い
★ 下着やウィッグの指示

日	時	10月13日(木)	午後2時~4時
場	所	公立鹿嶋総合病院 大研修室	
対	象	乳がんの既往がある方	
参	加	無料	
申	込	期間 9月30日(金)まで	

お知らせ (11月24日) 来年度のり八ビビを準備中。お申し込み・お問い合わせ>> 公立鹿嶋総合病院 相談支援センター 0238-46-5000 内線 1901 (高石)



フットケアとアロマサロン風景



H24

- ▶ フットケアと素敵にアロマ
- ▶ 抗がん剤とスキンケア
- ▶ ストーマケア
- ▶ がんに立ち向かう料理教室
- ▶ 元気の出るメイクアドバイス

H25

- ▶ ヨガ体操でリフレッシュ
- ▶ 介護のお手伝い
- ▶ 緩和ケアって
- ▶ スキンケアアドバイス
- ▶ スープで元気に料理教室

H26

- ▶ 脱毛ケアと顔の手入れ
- ▶ ヨガ体操でリフレッシュ
- ▶ 口腔ケア
- ▶ 乳がん患者さんの語り
- ▶ 減塩して美味しい料理教室

実践活動

認知度の向上

- ▶ ポスターを毎年リニューアル
- ▶ サイネージ(外来情報)へアップ
- ▶ ホームページの更新
- ▶ 患者サロンを市報、町報に掲載
- ▶ 「医療連携だより」「相談支援センターだより」の発行
- ▶ がん冊子を院内8か所に設置
- ▶ 手作り帽子の作成、提供
- ▶ がんパス、セカンドオピニオン、退院支援、緩和外来窓口などの業務を担い職員へ**広報周知**
- ▶ がん告知後や乳がん術後の補正下着説明など**相談依頼の仕組み**を作る。

公立豊橋総合病院 地域がん診療連携拠点
相談支援センターのご案内
病棟では、がんを含めた病気や診療に関する相談をお受けする「相談支援センター」を開設しております

医療相談
どの科を受診したらいいのかわからない、がんと言われたけど不安です、医療費の支払いが大変

福祉相談
介護保険についてわからない、葬儀費用には影響するの？

情報提供
がんの診療法は？
副作用は？
セカンドオピニオンって？

退院支援
自宅へ退院したいけど1人で不安、薬を飲み忘れてしまう

がんに関する書籍や冊子もご覧いただけます

▶ 相談申し込み：相談窓口・総合案内・新患受付、又は管理課へ
▶ 受付時間：8:30 ~ 17:00 (水・日・祝日除く)
▶ 相談無料 ※ 時間予約をさせていただく場合もあります
※ 様々な相談に対応しておりますが、緊急の診療する事はできません

公立豊橋総合病院 相談支援センター
医療連携・相談案内
TEL : 0238(46)5000 (内線 1901)
FAX : 0238(46)5721

相談支援センターにご相談になってみませんか
がんを含めた病気や診療に関する相談をお受けする「相談支援センター」を開設しております。

患者さんの手記
がんと告知されて、僕が真っ白になりました。ぼーっとして不安な心を押し止め、治療に立ち向かう気力が持てるように、相談員として役に立ちたいと考ええています。がんについて、医療費の支払い、セカンドオピニオンの情報提供など、お気軽にご相談下さい。

がんに関する書籍や冊子もご覧いただけます。

相談申し込み：総合案内・新患受付、又は管理課までお申込みください。

公立豊橋総合病院 相談支援センター
TEL : 0238(46)5000 医療連携・相談案内
AX : 0238(46)5721 (内線 1901)



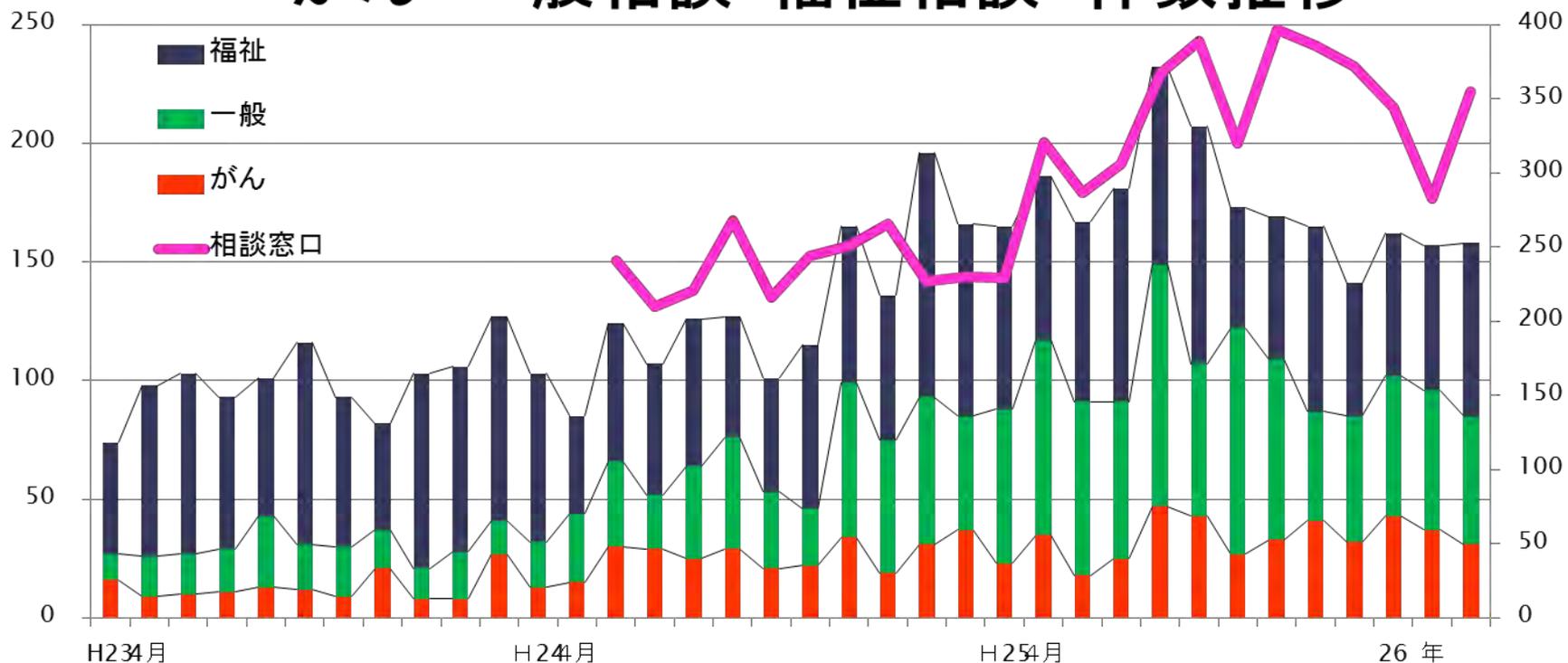
がん冊子や、各種パンフレット(ウィッグ、補正下着など)のご案内
国立がんセンターからの各種がんの冊子やがん講座、啓発DVD、がんを受診するための冊子など、数種類がございます。相談支援センターで、お気軽にご相談ください。お問い合わせください。

がん情報図書のご案内
書籍類、ご家族の介護、少しでもお役に立てた方がおられるように、がんに関する医学書、看護書や小児など幅広く取り扱っております。相談支援センターで、お気軽にご相談ください。お問い合わせください。

ウィッグ、補正下着などのパンフレット
ヘア帽子に関するさまざまなパンフレットを準備しております。7層の「緩和ケア」パンフレットも準備しております。医療費の助成金、手帳等の下着などについて



がん・一般相談・福祉相談 件数推移



- ▶ 相談対応は平成23年に比べ2.5～3倍となる
- ▶ がん相談件数は微増（緩和ケア、がん化学療法認定看護師など多職種でサポートしており数値化されない）
- ▶ 患者サポート体制充実加算（70点）算定あり、年間約700万円の収益



がん診療連携拠点病院の課題として

- 複雑、困難事例、先進医療への相談対応もあり、広域でのネットワークの必要性がある
- 満足度など評価しながら 相談対応の質・量を高める
- 終末期も含め在宅医療推進において、急性期病院として関係機関との連携でバックアップ体制など地域に求められる支援の実施
- 相談員の確保

認知度の向上

1. 価値認識を共有する組織の意識改革
2. 相談支援の体制強化と環境整備

実践の可視化

熱意

現状分析

根拠となるデータ収集

常駐化の実現、スタッフの充実、
多職種協働、サロンの開催

課題対策

PDCAサイクル

急性期病院として、「がん」のみならず各種相談に応じております。

患者にとってはもちろんのこと、医療関係者や地域から求められる相談支援を今後も実践してまいります。

